

開発教育指導者研修(実践編) 第1回 記録

■ 開催概要

- ◆ 日時 : 平成26年6月14日(土) 13:00~17:00、15(日) 10:00~15:00
- ◆ 場所 : なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数 : [1日目] 受講者43名、JICA7名、NIED5名、オブザーバー1名、合計56名
: [2日目] 受講者43名、JICA8名、NIED5名、オブザーバー1名、合計57名
- ◆ ファシリテーター : (特活) N I E D・国際理解教育センター 伊沢令子さん

■ 第1回のねらい

- ★ 開発教育・国際理解教育の目的、内容、方法を体験的に理解する。
 - ① 研修の全体像を理解し、各自の参加の目的をふりかえり、共に学び合う仲間同士知り合う。
 - ② グローバル化した世界の現状と、開発教育・国際理解教育の必要性を確認・共有する。
 - ③ 開発教育・国際理解教育が、価値観を育てる教育であること、行動変容を支える教育であること、そのための参加型の教育であることについての理解を深める。

■ プログラムの内容

● セッション1 「開発教育・国際理解教育はなぜ必要か」

★ 「今」「ここ」「わたしとあなたとわたしたち」から始めよう -----

1. 主催者あいさつ/スタッフ紹介など 13:02-[8]

- ◇ JICA木村職員から本研修開催にあたっての挨拶を行った。
- ◇ JICA中部のスタッフ、NIEDのスタッフがそれぞれ自己紹介を行った。

2. 1年間の研修の流れとポイント紹介 13:10-[16]

- ◇ JICA酒井調整員が2つの研修の位置づけ、内容、スケジュールなどについて説明した。
- ◇ レジュメをもとに、研修全体の流れ、各回の概要、第1回のねらいについてファシリテーターが説明した。

3. アイスブレイキング～「名前だけの自己紹介」 13:26-[8]

- ◇ 1分間、会場を立ち歩き、出会った人と名前だけを交換した。
- ◇ 名前交換した相手をさかのぼって、探しながら「〇〇さんですね」と確認してまわった。



4. アイスブレイキング2～「名刺で自己紹介」 13:34-[26]

- ◇ 以下の4つの自己紹介の内容を、各自A4用紙に書き留め、自己紹介シートを作った(5分間)。

- ① 私は何をしているか(職業名を言わない)
- ② 私のウリ(長所、得意なこと、チャームポイントなど)2つ
- ③ 最近ハマっていること(関心のあること、趣味など)
- ④ なぜここに?(研修参加の理由・期待)

- ◇ 自己紹介シート(名刺)の内容を、呼ばれたい名前の五十音順にグループで伝えあった(9分間)。
- ◇ Fコメント…「聞いたことは忘れる、見たことは覚えている、体験したことはわかる・応用できる。」



5. 開発教育・国際理解教育、自己理解・他者理解・国際理解についてのミニレクチャー 14:00-[5]

- ◇ 開発教育、国際理解教育のどちらになじみがあるか？ 挙手アンケート結果：前者1/5、後者4/5。
- ◇ 開発教育・国際理解教育、自己理解・他者理解・国際理解について、ファシリテーターが簡単に説明した。
「開発教育・国際理解教育とは、人権、環境、開発、共生、平和など人類共通の課題を理解し、課題解決しながら、よりよい未来を共に築く力を育む教育である。開発教育は外務省、国際理解教育は文科省が使っているが、同じことをめざし、同じ参加型の教育である。自己紹介がなぜ大切か。世界のことに関心を持ち理解しようと思うのであれば、身近な誰かを理解することが大切であり、さらに自分に対する関心や共感が必要だと考えるからである。自己理解、他者理解、国際理解はつながっており、3つの領域を行き来しながら深めていくものである。自己紹介は関心を持ってもらうきっかけである。」

★ 今をふりかえり世界や日本の現状を把握しよう -----

6. わたしをふりかえる・社会をふりかえる 14:05-[51]

- ◇ 以下の3つのことを各自考え、A4用紙に書いた（7分間+追加1分間）。
 - ① 自分の人生で大切にしていること、大切にしたいと思っていること（3つ）
 - ② 私たちの社会にとって大切だ、大切にされるとよいと思うこと（3つ）
 - ③ 私たちの社会で誇りに思うこと/残念に思うこと（各3つずつ）
- ◇ 自己紹介の時とは逆順で、各自が書いた内容をグループ内で伝えあった（1人1分30秒間）。
- ◇ Fコメント・板書…「価値観は多様、わたしと異なる考えは多様な意見の中の1つであり、間違いではない。」
- ◇ グループで各自の考えを共有してわかったこと・言えることを出し合い、模造紙にまとめた（7分間）。
- ◇ グループ中の発表者が1項目だけ（前のグループが発表したことを除く）全体で発表した。



【このワークを通してわかったこと・言えること】

- ・ 人のつながりが一番大事である。 ・ より良く生きたいという気持ちが強く、大切である。
- ・ 誇りに思うところと残念に思うところは紙一重である。 ・ 競争心とゆるさの共存があつてよい。
- ・ 楽しむ、ポジティブ、笑顔が共通項だった。 ・ 大切なことは感謝の心であること。自己愛、他者愛、家族愛。
- ・ 誇りである日本人の国民性（謙虚、我慢強い）が、自信が持てないといった残念なことにもつながっている。
- ・ 自分を軸に考えると個々大切にしたいことは異なるが、社会に発展していくとつながってくる。
- ・ 子どもたちがいないと私たちの未来も築けない。子どもが大切である。

- ◇ Fコメント・板書…「個人でふりかえる→グループで共有→共有してわかったことや言えることは何？という作業は、多くの意見に出会い、そこから学び合うことができる。」

7. データから読み解く私たちの社会と課題 14:56-[21]

- ◇ 地球や日本に関する課題などについて書かれた「地球の数字」「日本の数字」「今、地球で起きている30の真実」の資料をグループで分担して読んだ（7分間）。
- ◇ 自分が担当した資料を以下の3つの視点でグループメンバーに伝え合った（順番は次の人と指名する方式）。



- ① 何について書かれたものか
- ② データ資料からわかること・言えること
- ③ 最も印象に残ったことやデータ

- ◇ Fコメント…「データはNIEDが選んだ段階でバイアスがかかっているかもしれない。自分でも確かめてほしい。」

8. セッション1のふりかえりと参加型についてのミニレクチャー 15:15-[6]

- ◇ セッション1で行ったアクティビティの内容や趣旨について、板書をもとにファシリテーターが説明した。
- ◇ わたし・あなた・みんなに関わる力についてファシリテーターが説明した。
「参加する力、関わる力は、参加することでは、関わることでしか身に付かないと考えている。力をつけるための場と方法を提供することが参加型である。」

- 休憩 - 15:21-[12]

● セッション2 「開発教育・国際理解教育で育てたい価値観とスキルは何か」 6/14 15:33-17:11

★ よりよい未来につながる価値観とスキルについて考えよう -----

1. グループ替え、一言自己紹介 15:33-[8]

- ◇ じゃんけんで勝った2人、負けた2人が前後のグループに移動し、グループ替えを行った。
- ◇ 本名頭文字の五十音順で「〇〇な誰々です」という自己紹介を行った。
- ◇ Fコメント…「人は多面的にできている。多面的に知り合うことで理解が進み、関係性が深まる。そのため何度も様々なお題で自己紹介を行う。」

2. よりよい未来と価値観についてのミニレクチャー 15:41-[6]

- ◇ よりよい未来と価値観について、ファシリテーターが説明した。
 「私たちの社会は課題のある社会である。放置したままでは誰かが苦しんだり、巡り巡って自分が生きにくくなるかもしれない。変えたいことがある！ということがこの教育のはじまりである。「課題のある社会」を「よりよい未来」にしていくためには、「一人ひとりの行動変容」が必要である。開発教育・国際理解教育は、共に、知り、考え、気づき、動いていくという道りをつなげていくことで、一人ひとりがわかるだけでなく、動ける人になっていくことをめざす教育である。」
 「価値観とは、その人が大切にしている考え方で、その人の行動や選択を決めるものである。自分のためだけでなく、社会のよりよい未来のために、どんな価値観を育てていくことが役立つのか第2セッションで考えたい。」



3. よりよい未来のビジョン～ブレインストーミング 15:46-[28]

- ◇ 私たちが望む「よりよい未来」はどんな社会であるか、どんなことが実現されている社会なのか、それらの要素をグループで派生的なブレインストーミング*により模造紙に書き出した（5分間）。

※ ブレインストーミング（脳みその嵐）のルール
 ① 質よりも量、② 否定はしない、③ 結合と発展、
 ④ 斬新なアイデア歓迎、⑤ みんなは応援団



- ◇ 3分間追加し、テーマ（人権、環境、福祉、まちづくりなど多様なテーマ）や立場（自分だけでなく子どもたちや世界の人々などの立場）を変えて考え、ブレインストーミングを膨らませた。
- ◇ ギャラリー方式（会場を立ち歩き他のグループの模造紙を見て回る）で他のグループのアイデアを共有した。
- ◇ ギャラリー方式の際に発見した自分のグループにないアイデアを自分のグループで伝え合い、模造紙に書き加えた。
- ◇ 模造紙に出されたアイデアのうち、自分にとって最も大切と思うもの3～5つに☆印をつけた。

【 「よりよい未来のビジョン」 のブレインストーミングの成果例 】



- ◇ Fコメント…「☆をつけることで、優先順位の高いものが見えてくる。こうした順位付けをランキングという。」

4. よりよい未来のビジョン～7箇条づくり 16:14-[31]

- ◇ ブレインストーミングで出てきたアイデアをもとに、すべての人にとってのよりよい未来のビジョンを7つにまとめるための話し合いをグループで行い、模造紙に具体的かつ否定形ではない7つの文章にまとめた。
- ◇ 各グループがまとめた7箇条を順に全体で読み上げ共有した。



【よりよい未来のビジョン7箇条】

- | | |
|-------------------------------------|--|
| ①みんなが大切にされる社会 | ①全ての子どもが最高の教育を受けられる (自発的、1人1人の可能性、どこでも!!) |
| ②みんなが笑顔になれる社会 | ②地球全体が家族の様に接するアバターのような社会 (自然、環境、動物) |
| ③豊かな自然がある社会 | ③思いやりがもてる、心が豊かで笑顔な社会 |
| ④お腹いっぱい食べられる社会 | ①お互いを理解し、愛 (LOVE) のある世界 (World) |
| ⑤みんなが夢を持てる社会 | ②夢を語れる ③広く平等に教育を受けられる |
| ⑥信用し、信用される居場所がある社会 | ④笑顔が溢れる ⑤心が整うような場所 |
| ⑦みんな自分のこと好き! | ⑥福祉充実 (バリアフリー) など ⑦遊び心 |
| ①争いがあっても戦争がなく平和的解決ができる社会 | ①1人1人衣食住が満たされている |
| ②世界がなごまになれる社会 | ②人、物、地球すべてのものにも愛がある |
| ③だれもが自分の居場所がある社会 | ③安定的に仕事がある ⑤老若男女が夢を持てる |
| ④それぞれの文化が大切にされる社会 | ⑥ポジティブになり、笑顔になれる |
| ⑤1つにするのではなく、みんなちがってみんないい社会 | ⑦人と人がつながる ⑧みんなが教育を受けられる |
| ⑥夢を語る社会 | |
| ⑦誰にでもチャンスが与えられる社会 | |
| ①お酒が楽しくおいしく飲める社会 | ①みんなにやさしい社会 ②健康に暮らせる社会 |
| ②おいしい食事がとれる社会 | ③平和で安全な社会 |
| ③健康でいられる社会 | ④希望を持って夢を語る社会 |
| ④お互いを認め合える社会 | ⑤身近に豊かな自然を感じられる社会 |
| ⑤選択ができる社会 ⑥夢がもてる社会 | ⑥衣食住が保障された平等な社会 |
| ⑦だれもが生まれてきたことに感謝できる社会 | ⑦誰もが望む仕事につける教育を受けられる社会 |
| ①全ての子どもが等しく教育を受ける | ①安心、安全に暮らせる平和な社会 |
| ②豊かな自然と人の営みの共生 | ②自分も他人も愛せる社会 |
| ③世界の人々がお互いに信頼し合える安心した社会 | ③夢の実現のためにチャンスがある社会 |
| ④自国の言葉で自由に世界中の人とコミュニケーション が取れる世界 | ④誰もが学ぶために教育を受けられる社会 |
| ⑤自由に生き方を選択できる (夢がもてる) | ⑤お互いをリスペクトする社会 |
| ⑥花と笑顔があふれる世界 | ⑥一人ひとりが健康に生きていける社会 |
| ⑦衣食住が充実しており、健康的な生活がおくれる!! | ⑦みんな笑顔の平等な社会 |

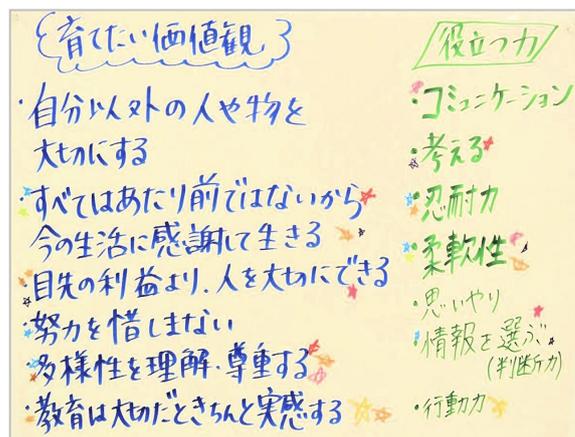
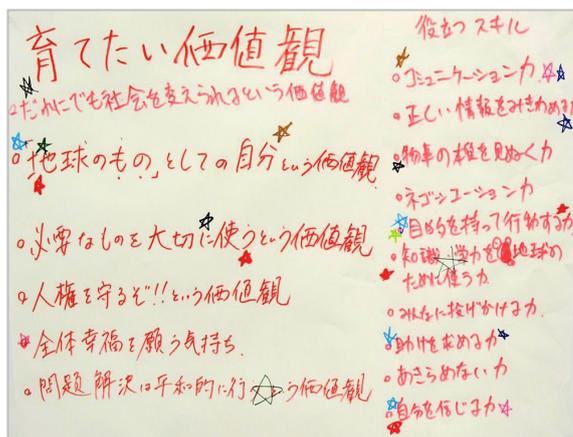
- ◇ Fコメント…「私たちはどんな社会がよいか対話を通して納得していくことが大切。誰かに任せていると自分の思うこととは違う方向に行ってしまうこともある。今回のグループの中でも自分の意見が言えたか？言えてないとしたらそれはどうしてか？課題にばかりフォーカスせずに、ビジョンを描くことで望む未来に進むことが大切である。

5. 課題解決とビジョン達成のために必要な価値観と役立つスキル 16:45-[15]

- ◇ どんな価値観を育てると、課題が解決され、よりよい未来のビジョンが実現した社会になるのか、そのためにどんなスキルがあると役立つのかについて各自で考えたうえで、グループで話し合い、模造紙上に対比表（左側：育てたい価値観、右側：役立つスキル）にまとめた。
- ◇ 3グループ間で模造紙を回し読みし、他のグループのアイデアを共有した。その際、よいアイデアと思ったものに各自で☆印をつけた。



【課題解決とビジョン達成のために必要な価値観と役立つスキルの成果例】



- ◇ Fコメント…「ポジティブな反応があると効力感があがってよい。回し読み方式の際には？印をつけて質問を受け付ける方法を取ることもある。」

6. ESDミニレクチャーとふりかえり 17:00-[8]

- ◇ ESD（持続可能な開発のための教育／持続発展教育）について、ファシリテーターが説明した。
「私たちの社会は様々な課題がある社会であり、このままでは未来は持続不可能である。人権問題をどうするか、貧困をどうするか、環境問題をどうするか、一人ひとりが問題を理解して、唯一の正解がないことをみんなで考えて、わかるだけでなく、練習しながらできるようになっていくといった教育が必要だと、10年前に国連で日本が提唱して始まった教育である。2014年が最終年で、愛知・名古屋で国際会議が開催される。ESD＝開発教育・国際理解教育だと考えている。」
- ◇ 今日わたしが学んだこと・気付いたことを各自ふりかえり、グループで伝えあった。

7. 事務連絡 17:08-[3]

- ◇ 平成25年度の本研修報告書を配付し、懇親会、宿泊チェックイン・チェックアウトについて連絡する。

★ 17:11 終了

● セッション3 「開発教育・国際理解教育では何を学ぶのか」 6/15 10:00-12:08

★ 知り・考え・気づく 学び方を学ぼう

1. はじめに 10:00-[4]

- ◇ なごや地球ひろば訪問プログラムについて説明した。また資料の訂正を行った。

2. アイスブレイキング：仲間さがし・仲間こわし 10:04-[13]

- ◇ ファシリテーターが出す質問に対して、会場を立ち歩き同じ回答の人を探してグループ（仲間）になる。その後、仲間の種類を確認したり理由を聞いたりした。
・質問内容… ① 一番好きな四季、② 所属団体区分、
③ 海外研修（ガーナ・ラオス）・指導者研修のみの別、
④ 居住県、⑤ 多様な人が入る5人グループ



3. 1日目のふりかえりとグループ自己紹介 10:17-[7]

- ◇ 1日目に行ったこととその趣旨について板書をもとにファシリテーターが説明した。
- ◇ 1日目で一番印象に残ったことを生まれ月順にグループで伝えあった。

4. ESD（持続可能な開発のための教育／持続発展教育）とは 10:24-[15]

- ◇ ESDの考え方とESDで大切にしている視点～「つちかいたい価値観」、「育みたい能力」、「大切にしている学びの方法」～が書かれた資料を各自読み、印象に残った3箇所を下線を引いた。
- ◇ 下線引いた1箇所となぜそこに引いたのかをグループで伝え合った。
- ◇ Fコメント…「正解のない問いに対して、自分の考えを伝え合うことは、コミュニケーションのスキルトレーニングになる。」

5. 開発教育・国際理解教育が扱う5つの柱ミニレクチャー 10:39-[5]

- ◇ 板書をもとに開発教育・国際理解教育が扱う5つの柱についてファシリテーターが説明した。
 - ① 多様な人、多様な国と肯定的に出会う（異なるものへの関心と共感を喚起する）。
 - ② 人や世界の多様性と同一性を理解する（違いは間違いではないこと、多様性受容力を養う）。
 - ③ 自分・他者・社会・未来のつながりに気付く（他人事を自分事につなぎ、自分の影響力を認識する）。
 - ④ 自己肯定感、コミュニケーション力、参加・協力などのスキルを育む（行動変容を支える）。
 - ⑤ 人類共通の課題について、共に考え共に越える（自立と共生を実現する主体者・担い手になる）。

6. 多様な世界と肯定的に出会う～あなたは観光大使 10:44-[39]

- ◇ 120カ国の国際理解教育教材『世界の国を知る・世界の国から学ぶ 私たちの地球と未来』のうち、グループに5つの大陸から1カ国ずつ配付し、教材の内容についてファシリテーターが説明した。
- ◇ 配付されたものから各自1カ国を選び、「その国に肯定的に出会う」ことをねらいとしている第1章のクイズ等のページを読んで、選んだ国のことを多面的に読み解いた（10分間）。
- ◇ 自分が選んだ国の観光大使になったつもりで、2分間ずつグループでプレゼンし合った。
- ◇ Fコメント…「問題や否定から入るより、良い面や肯定から入った方が、お互い知り合ううえで大切と考える。」
- ◇ 配付した教材の特徴や出典（愛知県国際交流協会のウェブサイトから無料でダウンロード可）について説明した。



7. グループ替えと一言自己紹介 11:23-[9]

- ◇ グループ替えをし、「今まで食べたもので一番美味しかったもの」で自己紹介する。

8. 教室の中の世界探検 11:32-[4]

- ◇ この研修会場にあるもので世界とつながっていると思うものをポップコーン方式でできるだけ多く出した。

【研修会場にあるもので、世界でつながっているもの】

空気、時計、電気、服、太陽、人、家具、血液、国旗、非常口のマーク、携帯電話、眼鏡、文房具、JICA、テレビ、Panasonic、心、時間、水、言葉、輸入材、紙

9. データで見る私と世界のつながり 11:36-[22]

- ◇ グループに配られた5種類（食、資源・エネルギー、水、ヒト、モノ）の日本と世界とのつながりに関する資料のうち、1人1種類を選び読み解いた（5分間）。
- ◇ 自分が選んだ資料から、わかったこと・言えること、印象に残った情報をグループで伝えあった。
- ◇ 全体で3人がやってみた感想を発表した。

【世界とのつながり資料を読んだ感想】

- ・ 目に見えないものも世界とつながっている。世界とつながっていないと日本は持続可能ではない。
- ・ 水、資源・エネルギー、人などのトピック同士もつながりあっていることに気付いた。
- ・ グループメンバーそれぞれが分析されてわかりやすく説明されていた。

- ◇ Fコメント…「人の頭を借りて学ぶ。分担して読み伝えることで協力し合える。」

10. グローバル化の恩恵とグローバル・イシュー 11:58-[11]

- ◇ グローバル化とは、「ヒト、モノ、お金、情報がより早く、より多く、より遠くまで移動可能となったこと」であり、様々な恩恵（例えば、食糧自給率が40%でも食べるに困らない、世界の情報が瞬時に手に入るなど）があり、その一方でグローバル化の課題もある旨、ファシリテーターが説明した。
- ◇ グローバル化の課題と思うものをグループでできるだけ多く出し合った。
- ◇ 一番多く出したグループから全体で発表した。その後各グループから追加で1つずつ発表した。

【グローバル化の課題と思うもの】

環境破壊、地球温暖化、エネルギーの枯渇、水不足、人口増大、貧困、教育が受けられない、高齢化、人身売買、経済格差、性的搾取、宗教対立、パレスチナなどの紛争、生物の絶滅、種の多様性喪失、生活様式画一化、国際結婚の離婚の親権問題、国際犯罪、金融問題、外国籍住民の対応、文化の継承問題、母国への想いの希薄化、フードマイレージの上昇

- ◇ Fコメント…「参加型の良さは、他人が気付いたことから学ぶことができる。」

11. 未来予測～グローバル・イシューを解決しなかったら 12:09-[12]

- ◇ グローバル・イシューを解決せずに放っておいたら、どんなことにつながっていくのか、グループで派生的に考え模造紙に書き出した。その際、7つ以上に広め、3つ以上に深めるようにした。
- ◇ 出されたアイデアのうち自分にも影響が及ぶと思うものにドクロマークを付ける。
- ◇ 3グループ間で模造紙を回し読みし、他のグループのアイデアを共有した。その際、よいアイデアと思ったものに各自で☆印をつけた。



【グローバル・イシューを解決しなかったら成果例】



12. JICA TIME ① 12:21-[11]

- ◇ JICA酒井調整員がJICAに関するビデオ上映し途中解説を加えながら、政府開発援助（ODA）の必要性、国際協力の必然性（過去日本も援助も受けて発展した）、JICAの国際協力の方法（技術協力、有償資金協力、無償資金協力）について説明した。

- 休憩 - 12:32-[63]

● セッション4 「開発教育・国際理解教育はなぜ『参加型』なのか」 6/15 13:35-15:20

★変化のための参加型・行動変容を支えるプロセス -----

1. ボディーワーク 13:35-[3]

- ◇ 頭の前から足の先までを意識でスキャンすることで凝っているところ、疲れているところを探して、その部分を揉んだり、伸ばしたりした。

2. グループ替えと一言自己紹介 13:38-[7]

- ◇ 1～9までの番号を振り、同じ番号の人とグループになった。「卵を使った料理で一番好きなもの」で自己紹介する。

3. セッション1～3のふりかえり 13:44-[9]

- ◇ レジュメをもとに、セッション1から3まで行ったことをファシリテーターが説明した。
- ◇ セッション1から3までを各自ふりかえり、感じたことなどをグループで伝えあった。
- ◇ Fコメント…「行動につなげるためには何に気づき何が大切だと思ったか、何が必要だとわかったかを覚えていることが大切であり、そのためにふりかえり言語化し意識化する作業を多く取っている。」

4. 参加型で考える糸電話の作り方 13:53-[27]

- ◇ 6段階の作り方のイラストをもとに、グループで話し合いながら、糸電話はどのような作業をしてどんなことに注意し作るか、小学4年生にわかるように文章化し、模造紙にまとめた。
- ◇ 4つのグループが「糸電話の作り方」の説明書を全体で発表した。



【糸電話の作り方 の説明書例】

<最も長い説明のグループ例>

- ① 紙コップを2個用意します。コップを逆さまに机の上におきます。千枚どおしでそれぞれの紙コップの底のまん中に糸が通るぐらいのあなを1つあけます。
- ② つまようじを1本用意し、はさみで半分に切ります。
- ③ 糸を3mの長さに切ります。切った糸の両はしをそれぞれ2つのコップに外がわから通します。
- ④ 通した糸をはしにつまようじをくくりつけます。
- ⑤ 紙コップに通した糸を紙コップの底につまようじが引っかかるまで引っ張り、ゆるまないように3cmに切ったセロテープでつまようじをとめます。もう1つも同じようにする。

<最も短い説明のグループ例>

- ① あける ② 切る ③ 通す ④ まく ⑤ とめる ⑥ できた! [ギネス挑戦]
 (自分でやってみよう) (しくみを考えよう!) (けがをしないようにがんばろう!)

- ◇ 全体での発表を聞いて、自分のグループで考えた説明書でより良くするところはどこか話し合った。

5. 参加型のメリット・デメリット 14:20-[13]

- ◇ 「糸電話の作り方」について、専門家から教えてもらう場合と今回のように参加型で考える場合と比較し、参加型で考える場合のメリットとデメリットを話し合い、模造紙にまとめた。
- ◇ 3グループ間で模造紙を回し読みし、他のグループのアイデアを共有した。その際、よいアイデアと思ったものに各自で☆印をつけた。



【参加型のメリット・デメリットの成果例】

| メリット | デメリット |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 色々な方法に気付く ゴールは同じだけ 自分で作ることの喜び 自分の意見をうまくまとめる よりよいものが生み出れる 他の人の話し方が参考になる 肯定されている、認められている安心感 交渉、コミュニケーションのスキルが聞ける | <ul style="list-style-type: none"> 色々な意見がうまく整理されない 丸い逆にならなくなる 自分のこだわりをどこまで主張していいかわからない 発言する人の意見で物事が進む 時間がかかる |

| メリット | デメリット |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 楽しい アイデアが多くなる 考えが深まる 体験したことは頭に残る(感覚) 意見が言いやすい 仲良くなる | <ul style="list-style-type: none"> 参加できない時はツライ 性格的に参加できない人も 考えが深まらない 時間がかる 意見をまとめきれないから ぎせいにしなさいという意見も出てくる |

6. 参加型のデメリットを乗り越えメリットを最大化する担い手の心掛け 14:33-[15]

- ◇ Fコメント…「グローバル・イシューなど社会的な課題の多くは絶対唯一の答えはない問題であり、開発教育・国際理解教育は課題の解決に向け学習者の関わる力を育む教育である。関わる力は参加し関わることでしか育たないと考えているので、開発教育・国際理解教育は、参加型で行っている。」
- ◇ 参加型のデメリットを乗り越え、メリットを最大限に生かすための開発教育・国際理解教育の担い手の心掛けを話し合い、肯定的な文章を5～7つ考え、模造紙にまとめた。
- ◇ 3グループ間で模造紙を回し読みし、他のグループのアイデアを共有した。その際、よいアイデアと思ったものに各自でハートマークをつけた。

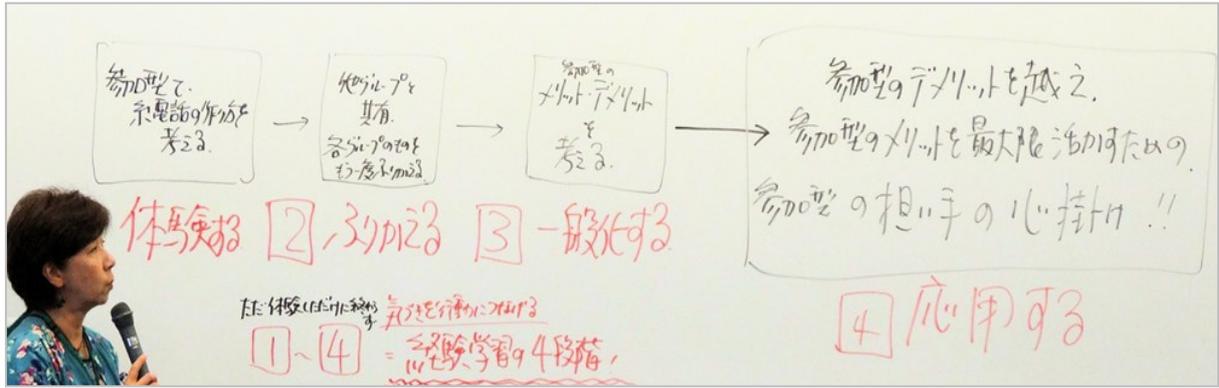


【参加型のデメリットを乗り越えメリットを最大化する担い手の心掛け】

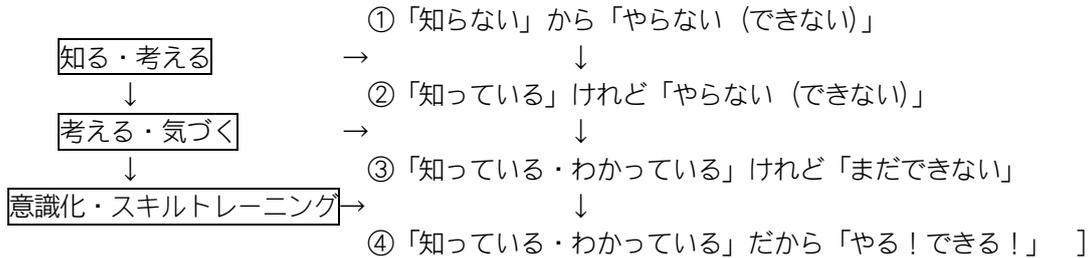
- | | |
|---------------------------|-------------------------------|
| ①他人の意見を肯定的に受け入れる | ①他者を気遣う |
| ②答えはたくさんあることを認識する | ②参加者からの多様な意見を受け入れる |
| ③ごほうび(ほめる、認める) | ③ルールを与える(参加者に応じて) |
| ④時間を制限する ⑤準備をする | ④キーワードを与える ⑤色んなゴールをつなげる |
| ⑥うまくできないグループをフォローする | ⑥教材やデータを与える |
| ⑦話し合いを楽しむ(結果よりプロセス!!) | |
| | ①グループ構成に配慮する(人数、能力、タイプなど) |
| ①参加型に合ったテーマを選ぶ | ②ブレインストーミングを活用して、自分の意見を多く出させる |
| ②参加型と講演型などの他の形を組み合わせる | ③声掛け、確認する ④完璧ではないほうがいいかも |
| ③参加したくなる教材を増やす | ⑤教師は見守ろう。自主性を信じよう |
| ④興味を持たない子もひきつける導入を工夫する | ⑥私も楽しむ。みんなで楽しむ ⑦振り返りをさせる |
| ⑤失敗例を知るその対応方法も! | |
| ⑥自分自身が参加型をたくさん経験する | ①他人を肯定する ②繰り返すことで慣れさせる |
| ⑦恐がらずに参加型を教える | ③グルーピングを考える ④身近なトピックからスタート |
| | ⑥よい雰囲気を作り出す ⑥ファシリテーターが楽しむ |
| ①時間にゆとりを持つ | ⑦遊びも許容 |
| ②チームで作る みんなが参加する 仲間を増やす | |
| ③身の回りにあるものを活用し、節約する | ①尊重 ②ゴールは無限 ③時間に余裕を |
| ④多様な視点を持つ | ④欠点を知る ⑤参加者の自由 ⑥寛容 |
| ⑤否定しない⇒肯定的視点を持つ | ⑦共に学びあう |
| ⑥アンテナを張って、情報を常に集める | |
| ⑦チャレンジ精神を持って楽しむ | ①1人1人考える時間をもつ |
| | ②否定せず、相手の意見を聞く |
| ①ルールを作る | ③時間の意識をもたせる |
| ②同じことを何度も伝える(正解、不正解はないなど) | ④他グループとの交流、共感、振り返り |
| ③ふりかえりの時間をとる ④時間を区切る | ⑤練習 ⑥固定化せず、様々な人と振り返り |
| ⑤担い手自身が参加者と同じ立場で | |

7. 経験学習の四段階および参加型についてのミニレクチャー 13:48-[7]

- ◇ 「糸電話の作り方」で行った四つの活動と経験学習の四段階を当てはめて、体験するだけでなく、気づきを行動(日常)につなげるための経験学習の四段階について説明した。また、「知らない」から「できる」までの行動変容を支える「知識、気づき、スキルトレーニング」の大切さについて説明した。



★ 行動変容を支える参加型



◇ 上記説明の補足資料を配付した。

8. 全体ふりかえり 14:55-[2]

◇ 研修第1回を通しての感想を2人が発表した。

【研修第1回を通しての感想】

- ・ポーとしているが、新しい教育の形を知り、すごい人たちから様々な考えに出会い、自分1人で43人の力をもらった。受講者全員にすると1,849人分の力の場となったと思う。とにかく興奮している。
- ・青年海外協力隊から帰り学校現場で実践をしているがなかなかうまくいかない。体験型のうまくいくきっかけがほしくて参加した。いろんな方の心掛けの意見を聞いて、来週からの実践に役立てようと思った。失敗からも学べるので、この場でも失敗覚悟で取り組んでいきたいと思った。

9. JICA TIME② 14:57-[18]

- ◇ 八重樫次長あいさつ…全国的にも充実した研修となっている。JICAとNIEDの協働の成果である。
- ◇ JICA中部の開発教育・国際理解教育の支援メニューについて説明した。
- ◇ 各県市で行うイベントを各県市推進員が紹介した。



10. 事務連絡 15:15-[5]

- ◇ 連絡事項 (Eメール連絡体制、メーリングリストの開設、次回からの懇親会幹事、次回宿泊希望、選考後説明会の開催時間) を事務局が伝えた。

★ 15:20 終了